



みんなでつなごう  
未来のスイッチ

# サイエンス アゴラ 2007

開催報告



# サイエンスアゴラ 2007

## サイエンスアゴラ2007を開催して



サイエンスアゴラ実行委員長  
永山 國昭

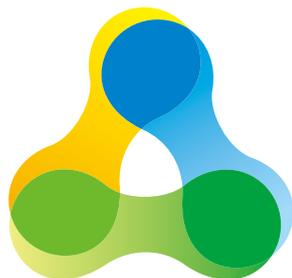
3日間晴天に恵まれたサイエンスアゴラは、秋の気配と目を輝かせた若者たちの絶妙なブレンドとしてさわやかでした。

実行委員会を早くから立ち上げた今年のアゴラでは、まず「アゴラは誰のものか」という初年度の宿題からスタートしました。結局、昨年のアゴラから生まれた草の根サイエンスコミュニケーション(SC)ネットワーク、3大学で走っているSC養成講座ネットワークという横系に科学技術振興機構(JST)本体の各種事業、日本学術会議関連事業、大学や国立研究機関の広報事業、各地の科学クラブとNPO、学協会若手組織という縦系を織り込むことになりました。そしてアゴラは参加者が作るをモットーに「みんなでつなごう 未来のスイッチ」というテーマを決め公募を開始したのです。

結果的には、165出展、463人登壇、総参加者約3,000人(出展側関係者を除く来場者数2,269人)という昨年をはるかに上回る盛況となりました。確かに、多くの会場、多くの出展で若者の熱い語らいを目の当たりにしました。親子連れの参加もかなり目立ち、これは未来館効果の現れなのかもしれません。人気の中心は何と言ってもライブサイエンス実演で、DNA抽出は小学生を含めた老若男女を虜にしたようです。また、SCの手段でもあり目的でもあるサイエンスアートは、大きな可能性を提示しました。サイエンスカフェ関係者も各地から集合し、この手法の有効性を感じさせました。もちろん、最終日の参加者 speak outでも指摘された多くの課題も残っています。何よりも出展者間のコミュニケーションが弱かったこと。これは、プログラム上の問題であり、来年に向けた改善点の第1です。その他、来場者動線の問題、開催時期問題、企業関係者参加不足などなど。

いずれにせよ、アンケート回答中の次の一文がアゴラの原点であり来年への活力です。

「出展者と参加者に分かれたのは単なる偶然で、皆が科学に対し同様の興味を持ち、一つの場所に集まり科学に関する議論をする。非常に楽しいと感じた」



science agora  
2007

みんなでつなごう 未来のスイッチ

## 開催概要

サイエンスアゴラ2007は、11月23日(金・祝)～25日(日)の3日間、東京・お台場で開催されました。各地でサイエンスコミュニケーションに携わる多くの団体・個人の参加を得て、16の会場で、シンポジウム、講演会、ワークショップから映像体験までさまざまな催しが行われ、概ね好天にも恵まれ、およそ3,000人の方にご参加頂きました。

イベント名称	サイエンスアゴラ2007
開催テーマ	みんなでつなごう 未来のスイッチ
日程	平成19年11月23日(金・祝)～25日(日)
会場	国際研究交流大学村 東京都江東区青海2-79 東京国際交流館、日本科学未来館 産業技術総合研究所臨海副都心センター
主催	独立行政法人科学技術振興機構
共催	日本学術会議、国際研究交流大学村(東京国際交流館 日本科学未来館、産業技術総合研究所臨海副都心センター)
後援	文部科学省 全国中学校理科教育研究会 大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台 独立行政法人国立科学博物館 独立行政法人理化学研究所 独立行政法人産業技術総合研究所 ブリティッシュ・カウンシル 独立行政法人日本学術振興会
協力	日本科学未来館、日本大学芸術学部
全体企画	サイエンスアゴラ実行委員会 永山國昭(委員長:独立行政法人科学技術振興機構 科学技術理解増進事業統括 自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター センター長) 縣秀彦(大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台 天文情報センター 准教授) 石川雄一(独立行政法人産業技術総合研究所 広報部審議役) 上田昌文(NPO法人市民科学研究室 代表) 木村政司(日本大学芸術学部 教授) 佐倉統(東京大学大学院情報学環 教授) 信濃正範(日本学術会議事務局 参事官 審議第二担当) 下野隆二(松下電器産業株式会社 パナソニックセンター東京リスピーア 館長) 中村日出夫(全国中学校理科教育研究会 顧問、品川区立荏原第一中学校校長) 美馬のゆり(公立はこだて未来大学 教授 日本学術会議科学と社会委員会科学力増進分科会委員) 渡辺政隆(文部科学省科学技術政策研究所 上席研究官)
事務局	独立行政法人科学技術振興機構 天野徹、前田義幸、河村昌哉、長神風二、谷村優太、深澤直人
運営	財団法人科学技術広報財団

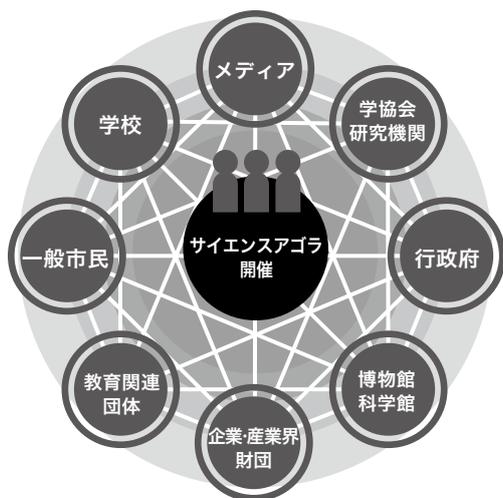
## サイエンスアゴラ2007のテーマ 「みんなでつなごう 未来のスイッチ」 について

社会とサイエンスをつなぐ広場「サイエンスアゴラ」が、昨年開設された。今年は広場をもっとにぎやかにしたい。そのために多くの人が自分たちで作るアゴラとしたい。社会的役割の異なるグループ同士がつながりを持つことで、街灯に光がともるように、新しい「何か」が次々に生まれる素敵だ。その「何か」は、研究や開発に向けたアイデアかも知れないし、新しいものの見方・考え方もかも知れない。つながることで開ける「未来」が体感できる光の輪にスイッチオン。

# サイエンスアゴラ2007—開催に至る背景と意義、今後の発展に向けて

## サイエンスアゴラ2006まで

サイエンスアゴラは、我が国のサイエンスコミュニケーション全体の基盤整備を目的に、平成18年11月に第1回が開かれました。「社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術」が第3期科学技術基本計画を貫く基本姿勢とされる中、サイエンスコミュニケーションの重要性は、広く認識されてきました。大学や科学館ではサイエンスコミュニケーターを養成する講座などが複数開始され、各地でさまざまな新しい活動が勃興してきています。そうした全国のさまざまな活動が一堂に会することで、社会と科学が交流し対話する大きな広場となり、科学にまつわる多様な職種・所属機関の人々が交流する広場となり、さまざまな活動を担う人々同士の相互交流をも発展させる広場となることで、サイエンスアゴラ2006の目的でした。



## サイエンスアゴラ2006

開催テーマ	科学と社会をつなぐ広場をつくる
日程	平成18年11月25日(土)~27日(月)
会場	国際研究交流大学村
主催	独立行政法人科学技術振興機構
共催	日本学術会議 科学と社会委員会 科学力増進分科会
後援	文部科学省ほか
参加者	83団体、約100出展、約150人登壇、1500人以上参加



サイエンスアゴラ2006の実施風景

## サイエンスアゴラ2006から2007へ

サイエンスアゴラ2006は、最初の開催としてはある程度の参加者を集め、サイエンスコミュニケーションを担う多くの方々が集まったことで、一定の成功を収めました。しかし、社会と科学が交流し対話する場として十分に機能したか、と問われれば、不十分と言わざるを得ません。一線の科学者・研究者の参加は必ずしも多数とは言えませんでしたし、更に一般の方々を呼び込む余地はありました。また、事務局から企画の出展の呼びかけの声が届いた範囲があまり広くなく、出展者にはある程度の偏りが見られました。

サイエンスアゴラ2006実施の反省を受けて、サイエンスアゴラ2007はイベントの骨子を決定する実行委員会を設置し、幅広い意見を代表する有識者を組織することからスタートしました。実施の目的そのものについては、基本的に昨年を踏襲しました。サイエンスアゴラは、科学技術政策担当者から、研究者、企業関係者、NPO、個人、家族連れに至るまでの縦の繋がりと、全国各地で活動するサイエンスコミュニケーターたちが結集する横の繋がりとを同時に希求する場として機能しようとしています。

実行委員会での議論を通じて、今年の開催テーマ「みんなであつなごう未来のスイッチ」を決定し、実施する企画を広く公募し審査によって決定するシステムを今回から整備しました。共催者である日本学術会議の各委員会から出展を得ることで、多数の一線の研究者たちの参加を得ました。また、会場である国際研究交流大学村にも共催者として参画を得て、会場利用のあり方がより多様になると共に、出展・来場ともにより国際色豊かなものになりました。



サイエンスアゴラ2007の様子

## サイエンスアゴラと日本のサイエンスコミュニケーション

サイエンスアゴラ2007は、参加者数、プログラム数、出展数、参加団体数のいずれにおいても、昨年を上回りました。イベントとしては、昨年から発展し、一定以上の成功を収めたと言えるかも知れませんが、しかしながら、サイエンスアゴラは、一過性のイベントとしての成功だけを目指しているのではなく、イベントを通じて、日本のサイエンスコミュニケーションの基盤を整備し、発展していくことを目指しています。

そもそも、サイエンスコミュニケーションとは、科学のおもしろさや、科学技術をめぐる課題について、多くの人々に伝え、共に考え、人々の意識を高めるような活動の総称です。サイエンスコミュニケーションが重要だと考えられている背景には、科学技術そのものの重要性が増していることが挙げられます。現代の科学技術は、直接に人々の生活、生命観、倫理観などに影響を及ぼすものになってきています。市民が当事者として、科学技術に関する決定や選択に参画せねばならなくなってきた現状が、サイエンスコミュニケーションの重要性をより高いものにしていきます。サイエンスアゴラが、サイエンスコミュニケーションに対する日本全体の高まりつつあるニーズに応えるものであったかが、問われなければなりません。

サイエンスアゴラが前述のように、科学技術政策担当者・研究者から家族連れに至る縦の繋がりと、サイエンスコミュニケーション活動を直接担う人々同士の横の繋がりの双方を希求する意義は、各層からのニーズを他層にあるニーズに結びつける場となれることと、複数の層に共通する課題をあぶり出し、制度や意識の全体的な改革につなげていく可能性を持つことなどにあると考えています。目的を達するためには、サイエンスコミュニケーション活動に携わる当事者自身が今後の展開を見据えて、切磋琢磨し合い、議論をたたかわせて、見解をまとめていくことも必要であり、そこに市民の参画を得ていくためには、一過性のイベントだけでなく、恒常的な仕掛けや仕組みも必要になってくるでしょう。

サイエンスアゴラは、単なるお互いの発表会として終わるのではなく、イベントをもとにして、日本中でサイエンスコミュニケーションが恒常的に活発に行われ、科学技術に関する決定や選択への市民の参画に敷衍が取り扱われた社会をつくっていくための一歩として作用していきたい、と考えています。

# データでみるサイエンスアゴラ2007

サイエンスアゴラ2007は、11月23日(金・祝)から25日(日)の3日間で、124の団体が出展に携わり、のべ463名が登壇もしくは出品し、94のプログラムに165の出展を得て、およそ3000人(一般2269名、関係者690名)が参加するイベントになりました。いずれの数字も、初めて開催された昨年を、大きく上回るものでした。

## 一般来場者の内訳

11月23日(金・祝)	688名
11月24日(土)	1109名
11月25日(日)	472名
合計	2269名

## カテゴリーの内訳(出展者の申請に基づく)

シンポジウム	16	談論会	1
講演	4	トークセッション	1
セミナー	7	フォーラム	1
ワークショップ	20	映像	1
実演	4	展示	12
SHOW	3	ブース展示	6
サイエンスカフェ	3	ポスター展示	16
パネルディスカッション	1	その他	3
コンテスト	1		

※1プログラム中に、複数のカテゴリーを含むものがあります。

サイエンスアゴラは、科学技術に対して興味や関心をもちコミュニケーションを行いたい全ての方々、科学技術に携わり異なる専門をもつ方々との間の連携や対話を望む全ての方々、科学と社会をつなぐことを考える全ての方々のために開かれた広場(アゴラ)です。より多くの方々に広場づくりに参画して頂くために、今年は企画出展を公募する、という形式を取りました。応募者は個人、グループ、団体、NPO、研究機関、科学館、企業、政府系機関など多種にわたり、多様な企画で構成されることとなりました。その中で、以下の3点は今年の特徴的な取り組みとなりました。

**(1) サイエンスとアートなどの分野を融合させた出展やセミナー**  
例)「アートとサイエンスをつなぐスイッチ」、「日米におけるサイエンスアートの現状と未来予想図」、「トップクラスのサイエンスアートを通じて」、「アート・アンド・サイエンスー科学と芸術のコラボ」、「分子が見える! 分子で魅せる!」、「コント「遺伝子組換えオババ」」など



## (2) 今年話題となったテーマを扱ったもの

例)「気候変動を考える～How to Communicate Climate Change?～」、「科学とテレビ／テレビと科学」、「新しい『サイエンス・メディア』をデザインする」、「科学技術リテラシーの効用～ライフコース構築の観点から」、「学校の理科教育を支援する体制の充実に向けて」など



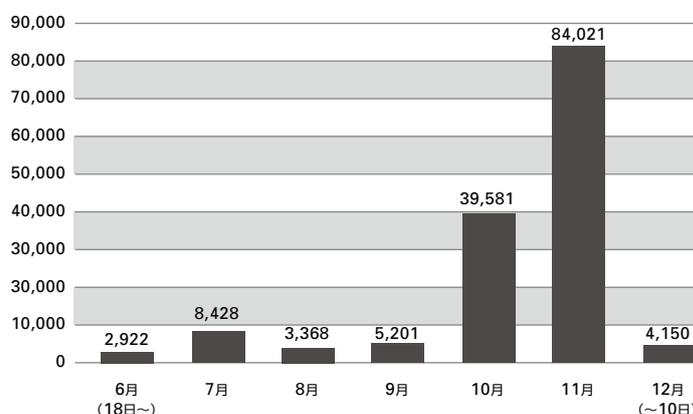
**(3) 出展者が他団体をとりまとめて出展するような組織横断的な参加例**  
例)「サイエンスカフェポスター展 in サイエンスアゴラ2007」、「サイエンスカフェって何?～できることをさぐる」、「SC俯瞰ii 新進科学コミュニケーター・レポート」など



## 2007実施までの歩み

6月上旬	サイエンスアゴラ2007におけるテーマ、開催骨子、日程等の決定
6月18日	プレスリリース 『サイエンスアゴラ2007』への企画出展の募集について サイエンスアゴラ2007公式ホームページオープン
6月19日	企画出展の公募開始
6月24日	企画公募説明会(東京)
7月8日	企画公募説明会(京都)
8月20日	企画公募の締め切り
8月下旬	開催概要、スケジュールの確定
9月25日	プレスリリース 『サイエンスアゴラ2007』の開催について ～みんなでつなごう 未来のスイッチ～
10月1日	各プログラムの事前募集スタート
10月15日	ポスター、リーフレット第1弾 発行
10月30日	リーフレット第2弾 発行
11月23日～25日	サイエンスアゴラ2007 開催

## サイエンスアゴラ公式ホームページのアクセス数



サイエンスアゴラ2007の企画公募の開始を伝えるプレスリリースと同時にスタートした公式ホームページは、12月10日までに、総計147,671回のアクセス(ページビュー数で算出)を記録しました。イベントの告知に留まらず、「オーガナイザー通信」や「事務局ブログ」を通じて、サイエンスコミュニケーションの場作りを担う人々の発信の場となりました。

# 開催プログラムスケジュール

## 11月23日(金・祝)

	日本科学未来館					東京国際交流館							産業技術総合研究所			
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	Q
10:00	みらいCANホール	インベーションホール	会議室1	会議室2	会議室3	国際交流会議場	メディアホール	ホワイエ	会議室1	会議室2	会議室3	会議室4・5	体育館	多目的スペース	1階ロビー	サイエンススクエア臨海
11:00	1 サイエンスコミュニケーション活動報告会	2 科学ライブショー「ユニバース」	3 振動反応と生命現象		4 広がる草の根サイエンス・コミュニケーション	5 社会技術フォーラム「ライフサイエンスの倫理とガバナンス」	6 次世代の科学教育と合宿セミナーを考える	70					7 コント「遺伝子組換えオババ」		76	
12:00				67 アートとサイエンスをつなぐスイッチ				71							77	
13:00	11 気候変動を考える How to Communicate Climate Change?							72							78	
14:00		12 Let's Go Go! マジカルスプーン	13 リテラシーの観点からみたトキの島再生プロジェクト	68 独立行政法人理化学研究所の紹介	14 踊る大科学コミュニケーション	15 エムメルチカラ宇宙に挑戦する理由		73		8 研究者情報発信活動推進モデル事業 成果報告会				9 miniセルフェスタ2007 in 東京	85	
15:00				69 心に訴える先端科学展示				74							86	
16:00								75							87	
17:00								76							88	
18:00								77							89	10 サイエンススクエア臨海 休日特別公開・特別講演会
								78							90	
								79							91	
								80							92	
								81					16 折り紙ヒコーキ教室		93	
								82							94	
								83								
								84								

ブース展示：11月23日(金・祝)24日(土)25日(日)開催 70.トップクラスのサイエンスアートを通して 71.星のソムリエ養成講座をひらいてみませんか? 72.世界にチャレンジ! 科学オリンピック 73.DNAチップを用いた新たな遺伝子教育の可能性 74.科学技術コミュニケーションの質を吟味する! 75.「いのちをまもる知恵〜減災に挑む30の風景」を伝える 76.カタチってすごい! 単純さ・複雑さから見える未来のサイエンス 77.星座今言物語〜天文学と「歴史学・民俗学」の新たな再会 78.大学での最先端の研究を覗いてみませんか? 79.音楽と科学のつながり…サイエンス天文ライブの報告

## 11月24日(土)

	日本科学未来館					東京国際交流館							産業技術総合研究所				
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	Q	
10:00		18 人間理解のための行動生物学 最新線	19 ロケットをつくる! ワークショップ			20 みんなで探そう 第二の地球 世界天文年 2009 プレイベント	21 未来のサイエンスのあり方とは 進化する競争と協力の間で	48 北大 de Mobile Cafe (デ・モバイルカフェ)	23 遺伝子検査が街にやってきた							76	
11:00				67 アートとサイエンスをつなぐスイッチ				70							77		
12:00								71							78		
13:00								72							79		
14:00	28 学校の理科教育を支援する体制の充実に向けて	29 第二回 サイエンスショップ・ワークショップ 日本におけるニースを考える	30 研究機関の広報の役割	68 独立行政法人理化学研究所の紹介	31 理科On喫茶 新感覚 サイエンスカフェ、ようこそ!	32 ロボットの人類学	33 携帯音楽プレーヤーを使用した 科学情報配信の実践報告	73	34 「先生はマジック!」見て、やって、謎解きを楽しもう	24 においの不思議〜くんくんと嗅覚を再発見! 体験!	25 アート・アンド・サイエンス 科学と芸術のコラボ	35 国境を越えた科学のコミュニケーション		26 実演・情報通信技術を駆使したレスキューロボット	80		
15:00				69 心に訴える先端科学展示				74							81		
16:00		37 科学技術リテラシーの効用〜ライフコース構築の観点から	38 学生からはじまるサイエンスカフェ					75							82		
17:00	42 科学とテレビ/テレビと科学							76							83		
18:00		43 サイエンスプレゼンテーション!	44 私たちの薬はどのようにつくられるのか?					77							84		
19:00								78							85		
								79							86		
								80							87		
								81							88		
								82							89		
								83							90		
								84							91		
															92		
															93		
															94		

ポスター：11月23日(金・祝)24日(土)25日(日)開催 80.宇宙少年団未来MM分団の活動紹介 81.視覚しょうがい者とともに楽しむ宇宙 82.携帯音楽プレーヤーを使用した科学情報配信の実践報告 83.生命科学研究における科学コミュニケーション活動の実践と調査 84.サイエンスカフェポスター展 in サイエンスアコラ2007 85.ようこそ!! 国際研究交流大学村へ 86.サイエンスグラフィックアート 87.SNOW FOREST 88.種類行動学の今 89.数理の翼夏季セミナーの活動紹介 90.今どきの若手研究者のネットワーク作り 91.今どきの若手研究者のネットワーク作り 92.科学ライブショー「ユニバース」の紹介 93.東大理学部「広報・科学コミュニケーションの概要 94.SC備前ii 新進科学コミュニケーターレポート

## 11月25日(日)

	日本科学未来館					東京国際交流館							産業技術総合研究所			
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	Q
10:00		49 「細胞を創る」研究とは? ~科学・技術と文化の対話に向けて				52 日米におけるサイエンスアートの現状と未来予想図	53 若手理系人のためのキャリア構築セミナー		54 HPスーパーサイエンスキッズコンテスト最終選考会とワークショップ	55 分子が見える! 分子で魅せる!		57 科コミ夏セミ2007「映像作品」発表報告会			76	
11:00			50 実験教室「身近な野菜からDNAを取り出してみよう」	67 アートとサイエンスをつなぐスイッチ				70						77		
12:00								71						78		
13:00								72						79		
14:00	59 総括基調講演・総括シンポジウム			68 独立行政法人理化学研究所の紹介				73						80		
15:00				69 心に訴える先端科学展示				74						81		
16:00		62 「銀色の霧のため」自然を通して見た東京	60 電子マネーカードの内部はどのようにして作るの? オリジナルキーホルダーを作ろう					75						82		
17:00								76						83		
18:00								77						84		
19:00								78						85		
								79						86		
								80						87		
								81						88		
								82						89		
								83						90		
								84						91		
														92		
														93		
														94		

# 来場者アンケート

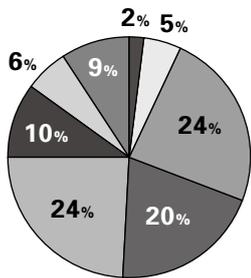
来場者に、記述アンケートおよびヒアリングアンケートを行いました。

## ●アンケートの内訳

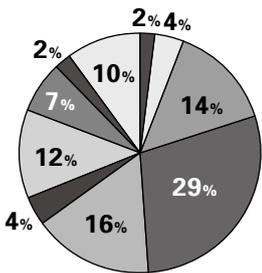
記述アンケート	回答数	97
ヒアリングアンケート	回答数	156

## 回答者に関して(記述アンケートから)

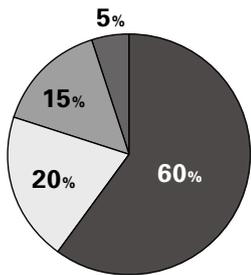
回答者の性別は、男性60%、女性36%(未記入4%)。年齢は20代~40代で68%になりました。職業の内訳は会社員が29%、教育職16%、研究職12%、出版・報道4%となりました。これらの結果から、現在活動中の方あるいはサイエンスコミュニケーションが職務等で必要な方の参加者が多いことが推測されます。



- 10才未満 2%
- 10代 5%
- 20代 24%
- 30代 20%
- 40代 24%
- 50代 10%
- 60才以上 6%
- 未記入 9%



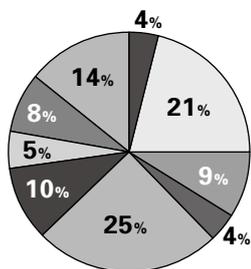
- 小中学生 2%
- 高校生 4%
- 大学(院)生 14%
- 会社員 29%
- 教育職 16%
- 出版・報道 4%
- 研究職 12%
- 主婦(夫) 7%
- 無職 2%
- その他 10%



- 一人で 60%
- 家族と 20%
- 友人と 15%
- 団体で 5%

認知経路は多岐に渡りますが、友人・知人から聞いて知った人が25%と最も多くなりました。サイエンスコミュニケーションに興味がある、あるいは活動をしている人からの口コミによる広がり、サイエンスアゴラの特徴と言えるのかもしれない。

## ●「サイエンスアゴラ」をどこで知りましたか?

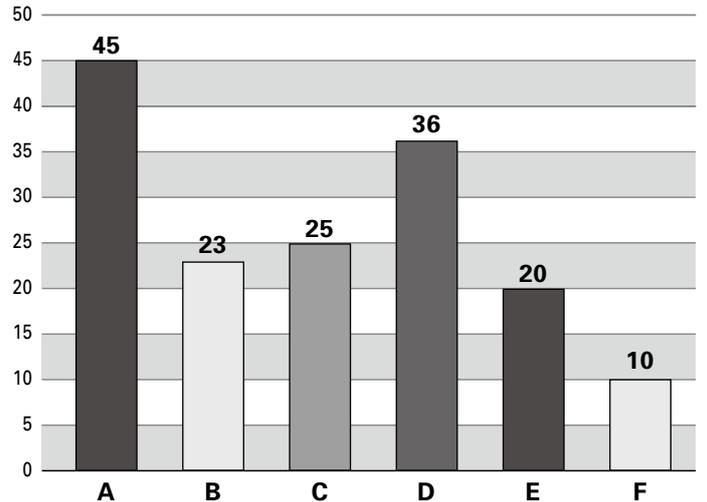


- 新聞・雑誌 4%
- サイエンスアゴラHP 21%
- その他のHP 9%
- メーリングリスト 4%
- 友人・知人 25%
- ポスター・チラシ・はがき 10%
- 未来館に来て 5%
- 昨年参加して 8%
- その他 14%

## サイエンスアゴラに何を期待して参加したの? (記述アンケートから)

どの回答もバランスよくあり、参加者の期待が多岐に渡ることがわかります。

- 子供の興味を大切にすため(40代・女性)
- 娘の大学の自由課題のレポート提出の材料として(娘に連れられて)(50代・男性)

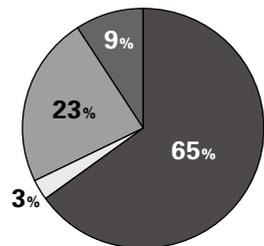


## ●サイエンスアゴラに何を期待して参加しましたか。(複数回答可)

- A.新しい科学技術の内容について知る 45
- B.サイエンスアゴラに参加する人たちと交流する 23
- C.お目当ての人の話を聞く 25
- D.科学コミュニケーションの動向について知る 36
- E.自分の科学コミュニケーションスキルを向上させる 20
- F.その他 10

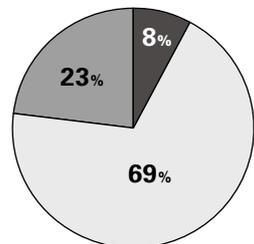
## 参加者の足どり(ヒアリングアンケートから)

来場者の65%は、目当ての出展がある、と答えています。つまり事前に何らかのかたちでプログラムを知っていて、それを目掛けて来ていることになりませんが、逆に言えば、気軽に来場したいと思う人には一見すると敷居が高いイベントであることがうかがえます。きっかけ作りとして、とりあえず会場に行ったら楽しめそう、というイメージをもう少し打ち出すことができれば、より多くの来場者を取り込めるのかもしれない。



- 目当ての出展がある 65%
  - ジャンルだけは決めている 3%
  - 見たいイベントを調べていない 23%
  - その他・無回答 9%
- (回答数145)

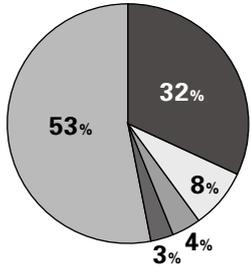
## ●目当てのイベントに参加した後の行動は?



- 他を見る予定なし 8%
  - 目当て以外のイベントを見た、もしくは見る予定 69%
  - 不明 23%
- (回答数105)

# 来場者アンケート

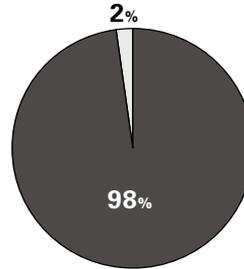
目当て以外のイベントを見た、あるいは見る予定と回答した人が69%のほりました。そのうち、他のプログラムにも参加するという考えがある一方で、そのプログラム内容は、自分の興味や専門と関連したもの、と回答する方が32%になりました。



- 目当て以外のイベントを見た動機は？
- 興味・自分の専門との関連 32%
  - 子供が関心を持ったから 8%
  - 知人がいた、知っている団体だった 4%
  - その他 3%
  - 理由なし・回答なし 53%
- (回答数73)

## 今後もこのようなイベントがあれば参加したい？ (記述アンケートから)

今後もこのようなイベントに参加したい、と答えた人が98%となりました。参加したいイベントについて6つのカテゴリーを設けて複数回答してもらった結果、ほぼどれもがバランス良く選ばれました。

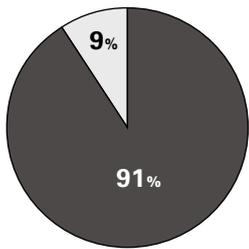


- 今後もこのようなイベントがあれば参加したいですか？
- はい 98%
  - いいえ 2%

## 参加してどう変わったの？(記述アンケートから)

### <新しい発見や感動>

- 研究者と一般の人の交流する場の始まりとなった。(50代・女性)
- 科学と科学技術の普及に熱意をもつ各世代の多さに圧倒されました。(40代・女性)
- 科学コミュニケーションの様々な可能性や方法のヒントを得ることができました。(20代・女性)

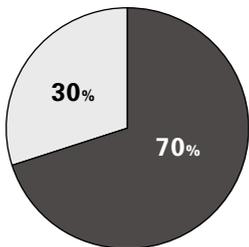


- サイエンスアゴラに参加して新しい発見や感動はありましたか？
- はい 91%
  - いいえ 9%

### <交流があった来場者から、

#### 研究者や科学コミュニケーターへのメッセージ>

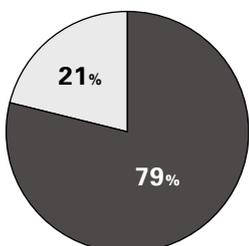
- 使命は重いぞ(男性・教育職)
- これから研究する身なので、モチベーションが上がりました。(20代・女性)
- 分かり易く伝えようとする熱意・工夫が思った以上でした。(男性・会社員)



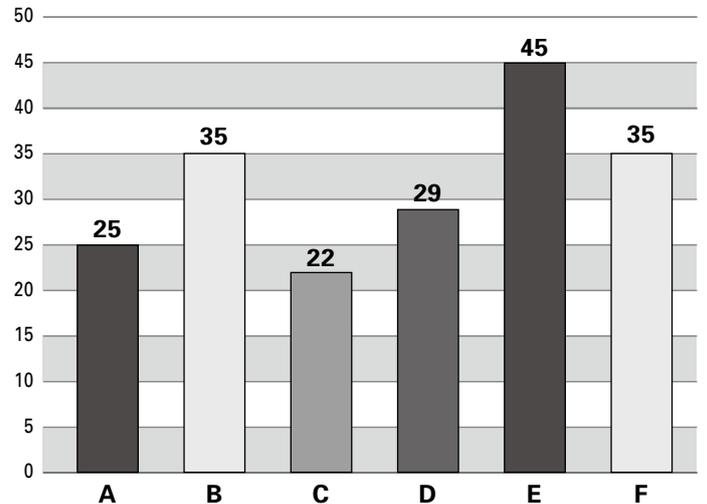
- 研究者や科学者、また科学コミュニケーターとの交流はありましたか？
- はい 70%
  - いいえ 30%

### <社会と科学の関係について考えたこと>

- 科学者が情報発信できる場を保障する必要性について感じた。(20代・女性)
- 科学の研究を何のためにしているのかということがよくわかった。(40代・男性)
- 研究者と一般の人の隔たりがあることを実感。研究者に対して一般の人が発言する場があるのだろうか。(50代・女性)



- サイエンスアゴラは、社会と科学の関係について考えるきっかけとなりましたか？
- はい 79%
  - いいえ 21%



### ●どのようなイベントに興味がありますか？(複数回答可)

- A.家族連れ向け 25
- B.サイエンスコミュニケーションの現場に携わる人向け 35
- C.大学生・大学院生・若手研究者向け 22
- D.理科教育に興味がある人向け 29
- E.最先端の科学を知ることができるイベント 45
- F.科学者・研究者と直接交流ができるイベント 35

## 自由記述

- このイベントのことが世間の人に知られていないのが残念です。もっと広報活動してほしいと思います。(50代・男性)
- 東京以外(地方)の子供にもこのような機会を提供してほしい。(20代・女性)
- アゴラは、サイエンスコミュニケーションの学会(考える場)なのか、本当に一般向け(サイエンスコミュニケーションをやる場)なのかどっちつかずのような気がする。(30代・男性)
- 2年目ということで良くも悪くも変化が感じられました。会場にいて思うのは、イベントが一種“同人”的な趣を持っているということです。科学が好きな人による「科学が～人のための」イベントになっていないか。それは横のつながりを作るにはとてもよいのですが、悪い意味での内輪感につながってしまうこともあります。(女性・年齢不詳)
- 多様な角度から科学コミュニケーションに接近しているのはよかった。科学者サイドへの啓発が重要と改めて思った。(50代・女性)

# 出展者の声から振り返るサイエンスアゴラ2007

サイエンスアゴラ2007では94のプログラムが行われました。重複を含めれば94人が、各プログラムを作る中心を担いました。事務局では、開催前、各プログラムの終了直後、開催後(約10日後)の3度、出展者に向けてアンケートを実施しました。彼らの声から、サイエンスアゴラ2007を振り返ります。

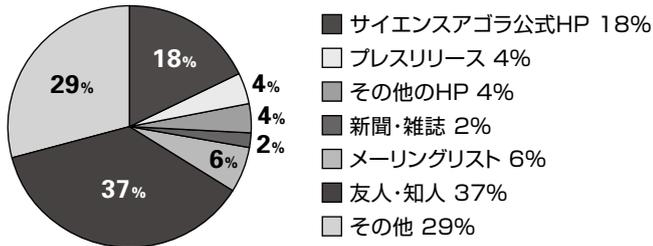
アンケートの結果から、出展者がサイエンスアゴラを、自らの活動をアピールする機会として利用することに成功したものの、他の出展者や登壇者と横の繋がりを形成する場としては若干の不完全燃焼に終わったことがわかります。とは言え、サイエンスアゴラ2007をきっかけに、科学館の企画展に展示物の出展の話が始まったり、共同事業へのステップが始まったりしている事例の報告も届いています。

## ●出展者アンケートの内訳

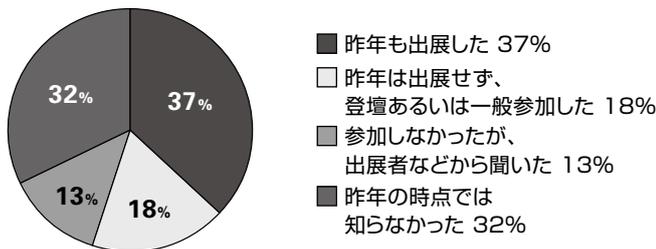
開催前アンケート	回答数	38
終了直後アンケート	回答数	65
開催後アンケート	回答数	30

## サイエンスアゴラへの出展まで (開催前アンケートの結果から)

今回の開催の大きな特徴の一つは、一斉の企画公募による出展募集です。サイエンスアゴラをより多くの方々に広げるための手段でしたが、出展者たちはどのようにして、公募を知ったのでしょうか？



アンケートによると、37%の方々が「友人・知人から聞いた」とし、更にメーリングリストによる方も6%あります。草の根的なネットワークが、サイエンスアゴラを支えていたことがわかります。



また、昨年、サイエンスアゴラ2006にどのように携わったかを尋ねた設問からも、この傾向はうかがえます。2006開催において、登壇あるいは一般参加していた方々が18%、出展者から様子を聞いた方が13%です。ちょっとした関わりが、より深い関わりにつながっていく連鎖は、まさにサイエンスアゴラが歓迎するものです。一方で、昨年の時点では知らなかったという人も32%にのびました。今後、どのような層にどのような手段を用いて働きかければ、新規の出展につながっていくのか、検討する必要があります。

準備期間中を通じての苦勞については、広報と予算、そして、準備時間の確保が主に挙げられました。“一緒に出展する研究者を誘うとき、サイエンスアゴラというイベントがどのようなものなのか、またそこに出品することによる研究者のメリットがなんなのかを説明すること”を最大の困難としたコメントも寄せられました。イベントそのものの認知度が2年目とは言え十分でないこともうかがえます。

## サイエンスアゴラへの出展は、 出展者自身にとってどのようなものだったか

プログラムを実施した直後に、出展者は何を感じたのでしょうか。終了直後アンケートから、特徴的なものをいくつか紹介します。

### 7 コント「遺伝子組換えオババ」

主催：コント団 グモッチュ

笑いがおこった部分はまあよかったが説明くさを消されなかったのは残念。しかし見てくれた方には概ね面白い試みと受け取っていただけたように思う。反応があたたかかった。



### 13 リテラシーの観点からみたトキの島再生プロジェクト

主催：東京工業大学 トキの島リテラシープロジェクト



科学技術リテラシーを身近な科学的・技術的要素のある問題に対する行動能力と考えて、実際の問題を追体験しながらワークショップで掘り下げる形を取った。問題の共有はできたがその問題の解決のために必要な能力について話し合うには時間が足りなかった。参加者の能動性に助けられた。

### 54 HPスーパーサイエンスキッズ コンテスト最終選考会とワークショップ

主催：HPスーパーサイエンスキッズ実行委員会

サイエンスとアートを融合させるという共通の取り組みをしておられる団体や個人の方に、効率よく多数めぐり合うことができ、非常に有効なイベントでした。今後の私たちの活動の幅と質を高める上で役に立ちました。



### 63 生命の息吹と地球の鼓動を聞く：今、フィールドサイエンスが面白い

主催：日本学術会議 自然史 古生物学分科会



地球を取り巻くさまざまな現象が、人間生活を脅かしている。地震、火山活動、環境擾乱、生物多様性の減少などである。これらの問題に対処するためには、自然に立脚したフィールドサイエンスが重要である。このことを理解して頂くことを目的として、さまざまな分野の7名の研究者に体験談を含め、フィールドのおもしろさと難しさについて話して頂いた。それぞれ、魅力的な話であり、聴衆を魅了した。一方で、フィールドサイエンスが「スローサイエンス」であることから、昨今の競争に負けがちであるとの悩みも紹介された。悲喜こもごもの実態が明らかになり、それを参加者と共有できた点で、本シンポジウムは成功であった。(後略)

### 67 アートとサイエンスをつなぐスイッチ

主催：日本大学芸術学部

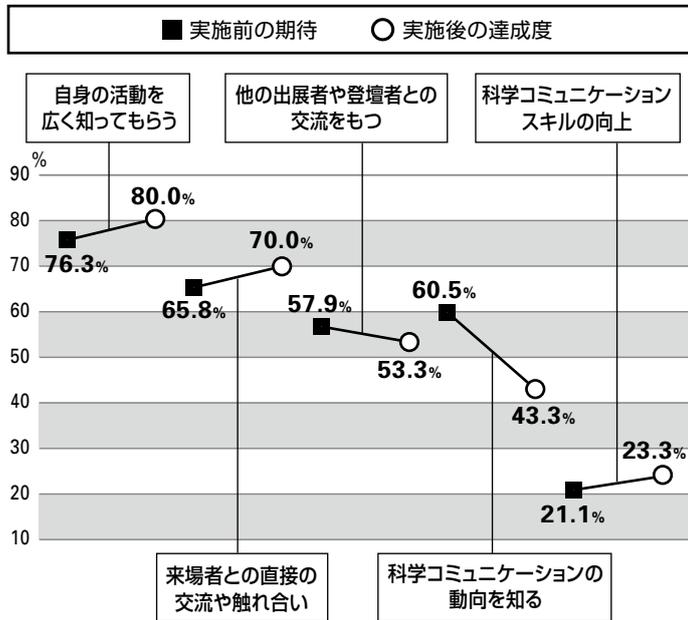
展示することよりも双方向の生きたコミュニケーションのあり方をもっと効果的に実施する方法を模索する必要性を感じた。より自然なかたちでアートとサイエンスがつながり、もっとインパクトのある伝え方を開発し、ヴァージョンアップさせたいと考える。学生にとってもいい経験を提供できたことが最大の効果だった。



# 出展者の声から振り返るサイエンスアゴラ2007

## サイエンスアゴラに出展して何をすることができたか

サイエンスアゴラに対して、そもそも出展者たちが何を期待し、何を果たしたのでしょうか。開催前アンケートで「期待すること」として挙げたことが、開催後アンケートで「得られたこと」として挙げられたのかどうかで比較しました。



自らの活動のPRの場としてサイエンスアゴラを期待していた方は多かった(76.3%)ですが、期待を満たす場となったことが結果から見て取れます。

●“アゴラ”の名のとおり、出展者、来場者との自由な交流の場だと感じました。(開催後アンケートより/東京都・NPO)

また、出展者が来場者と直に触れあえる場として期待した側面も大きかったようです。週末の3連休ということもあり、昨年実績を大きく上回る一般来場者を得たことから、交流の機会は、期待以上に持てたのかも知れません。

●まだまだ大学や研究者に対するイメージが「敷居が高い」と感じている人が多いようです。その分研究者が同じ目線で話すことを喜んでくれる一般の方が多かったようです。研究者自身も勉強になったようです。(終了直後アンケートより/北海道・大学関係者)

反対に、このイベントの大きな目的の一つである、出展者間、登壇者間の交流については、期待値も実施後の満足度も必ずしも高いものではありませんでした。自分たちの企画で手一杯で、他の人たちと交流することがなかなかできなかったという声も聞かれ、また、プログラムに空き時間の少ないタイトなスケジュールだったことが影響しているかも知れません。今後、サイエンスアゴラという広場を出展者が一体になってつくりあげていく、ということをどのように実現できるか課題となってきています。

日本のサイエンスコミュニケーションの動向を知る、という期待は、多くの出展者もったものの、あまり満たされなかったという結果になりました。会場やプログラムの作り方も関係しますが、例えば、多くの出展を分野や対象によって分類し、一目でわかる工夫などが必要なようです。

出展が科学コミュニケーションスキルの向上になる、と考えた出展者は多くはなかったようですが、実施してみると、期待よりは成果があったようです。以下のようなコメントも寄せられています。

●新しいアウトリーチモデルを実験することが出来ました。参加者の意見を参考に機会があれば地元でも同じようなスタイルで活動したいと思っています。(開催後アンケートより/北海道・大学関係者)

## 出展は今後はどうつながっていくのか

出展者の普段の活動に、どのような影響を与えていくのでしょうか?アンケートの記述から、特徴的なものを拾っていきます。単なるイベントに留まらず、具体的な事業に結びついていくものも見受けられます。

- 企画者のもとよりボランティアスタッフの方たちと共にイベントを作れたことに大変意義を感じました。ひとつの講演会で終わらず、講師と企画者、応援している方々の思いが今後伝染していくと確信しました。(北海道・企業関係者)
- 今回のセッションをきっかけにして、これまでなかった研究機関の広報担当者の横のつながりが生まれ、研究会を今後行うこととなった。(茨城県・研究機関)
- 一般の人にサイエンスカフェについて説明した時に“大学関係者じゃなくても参加していいの?”と聞かれました。全国各地で科学コミュニケーションが広まりつつありますが、市民と専門家が同じステージで話し合えるようになるには、まだまだなのと感じました。(北海道・大学関係者)
- サイエンスコミュニケーションのあり方がまだこれではダメだと思った。同時に、今後の考え方ややり方の模索に早々にとりかからなければ、何も変わらないことが分かった。やはりサイエンスとデザインをもっと面白い形で伝えることに可能性を見た。(東京都・大学関係者)
- サイエンスコミュニケーターと呼ばれる人たちの活動は、科学の面白さを伝えることに重点を置きすぎている印象があった。面白さだけで、科学の中身が伝わりきれないもの、科学が正確に伝わっていないものが目についた。もちろん、面白さを伝える、興味を持ってもらうことは大事だが、科学を伝えるだけでなく、そこから科学に対する意見を伺うことも重要ではないだろうか?そのような取り組みを行うことの重要性を再確認できた。(京都府・大学関係者)

サイエンスアゴラ全体に対して、出展者はどう感じ、次年度以降の出展をどう考えているのでしょうか?

- (良い意味で)これはサイエンスのコミケだと思いました。偶然の都合や環境で「出展者」と「参加者」に別れてしまっていますが、みな科学に対して同様の興味を持って、一つの場所に集まり科学に関する議論をする。非常に楽しいと感じました。サイエンスコミュニケーター同士のコミュニケーションの場と言うよりも、いろいろなスタンスの人が一カ所に集まって科学を楽しむ場としての方が活路があるように感じます。出展者もそう感じている人が多く、科学のコミケだ!と感じている人の方が活発に、しかも嬉々として会場で活動しており、サイエンスコミュニケーションそのものを主題にしているセッションは概して元気がないように感じました。(中略)気になるのは、参加者がそれぞれ自分の科学のコミケに夢中で、他の人の活動を自分の中で価値づけることができていないのではないかと感じる点です。(後略)(山口県・メディア関係者)
- これだけ多くの人が集まる科学イベントは他にないと思われ、参加者が「未来」を体感できる広場の持つ意義は大きい。(東京都・行政機関)
- 実践の報告が多かったような気がする。それも良いとは思いますが、サイエンスコミュニケーションの多様性を考えれば、いろいろな切り口で深く議論する場があっても良いと思う。そういった企画ができる団体が少ないのは問題かもしれない。(茨城県・研究機関)
- 去年よりも、サイエンスを実際に行っている研究者の参加が増えていたように思う。だが、まだ研究者の参加は少なく感じた。サイエンスコミュニケーションにおいて、現場の研究者は重要な主役の1人であり、研究者とともにサイエンスコミュニケーションのあり方を考えることが、サイエンスコミュニケーション活動の持続・発展に重要だと思う。来年度はもっと多くの研究者が参加できる工夫をしてもらいたい。(京都府・大学関係者)

開催後アンケートでは、93%の出展者が、来年も出展したい、と答えました。多くの方々に支えられて、サイエンスアゴラはこれからも続いていきます。

# メディアに取り上げられたサイエンスアゴラ

朝日新聞、毎日新聞、日刊工業新聞など新聞各紙をはじめ、日経サイエンス、子供の科学、R25などの雑誌、NHKラジオでも取り上げられました。また、当日の様子はフジテレビ、TBSのニュースで放送されました。

## プリント

	媒体名	媒体社名	発売日	掲載号
1	理科教室	日本標準	9月26日	10月号
2	社会教育	全日本社会教育連合会	9月28日	10月号
3	毎日新聞	毎日新聞社	10月7日	
4	毎日新聞(夕刊・北九州版)	毎日新聞社	10月10日	
5	日刊工業新聞	日刊工業新聞社	10月11日	
6	教育新聞	教育新聞社	10月15日	
7	Medical Bio	オーム社	10月22日	
8	Fuji Sankei Business i	日本工業新聞社	10月23日	
9	日経サイエンス	日本経済新聞社	10月25日	12月号
10	朝日新聞	朝日新聞社	10月26日	
11	リビング東京ベイ	サンケイリビング新聞社	10月27日	
12	ぱど(東京東版)	ぱど	11月2日	
13	日経産業新聞(東京版)	日本経済新聞社	11月6日	
14	日経産業新聞(大阪版)	日本経済新聞社	11月6日	
15	山梨日日新聞	山梨日日新聞社	11月8日	
16	月刊マナビィ	ぎょうせい	11月10日	11月号
17	トランジスタ技術	CQ出版	11月10日	12月号
18	子供の科学	誠文堂新光社	11月10日	12月号
19	数学セミナー	日本評論社	11月12日	12月号
20	四国新聞	四国新聞社	11月13日	
21	東奥日報	東奥日報社	11月15日	
22	理科の教育	東洋館出版社	11月15日	11月号
23	日刊工業新聞	日刊工業新聞社	11月16日	
24	福島民報	福島民報社	11月16日	
25	ぱど(東京南西版)	ぱど	11月16日	
26	科学新聞	科学新聞社	11月16日	
27	宮崎日日新聞	宮崎日日新聞社	11月17日	
28	理科教育ニュース	少年写真新聞社	11月18日	
29	現代化学	東京化学同人	11月中旬	12月号
30	山陽新聞	山陽新聞社	11月20日	
31	R25	リクルート	11月22日	No.168
32	日刊工業新聞(東京版)	日刊工業新聞社	11月22日	
33	日刊工業新聞(大阪版)	日刊工業新聞社	11月22日	
34	秋田魁新報	秋田魁新報社	11月22日	
35	日刊ゲンダイ	日刊現代	11月23日	
36	朝日新聞	朝日新聞社	11月25日	
37	日刊工業新聞	日刊工業新聞社	11月27日	
38	日刊工業新聞	日刊工業新聞社	11月30日	
39	溶接ニュース	産報出版(株)	12月4日	
40	科学新聞	科学新聞社	12月7日	

## 通信社

	媒体名	媒体社名	配信日
1	共同通信	共同通信社	11月5日

配信先: 地方新聞社

## TV

	放送日	番組名	放送局	ネット数
1	11月24日(土)	TBSニュース	TBS	1局
2	11月24日(土)	FNNスーパーニュースWEEKEND	フジテレビ	1局
3	11月24日(土)	イブニングニュース	TBS	1局
4	11月25日(日)	LIVE2007ニュースJAPAN	フジテレビ	1局

## ケーブルTV

	媒体名	媒体社名	掲載日
1	夢チャンネル (江東ケーブルテレビ)	東京ベイネットワーク(株)	10月28日~ 11月18日 (1日5回)

番組間で告知

## ラジオ

	媒体名	媒体社名	配信日
1	あさいちばん 首都圏情報	NHKラジオ	11月16日

## WEB

	媒体名	媒体社名	配信日
1	毎日jp	毎日新聞社	10月7日
	<a href="http://www.mainichi.jp/select/science/rikei/news/20071007ddm016040172000c.html">http://www.mainichi.jp/select/science/rikei/news/20071007ddm016040172000c.html</a>		
2	B's web magazine	office BARACA	10月9日
	<a href="http://www.baraca.jp/WEB/event/ev_pickup_07060.html">http://www.baraca.jp/WEB/event/ev_pickup_07060.html</a>		
3	kijiji	Kijiji International Limited	10月9日
	<a href="http://tokyo.kijiji.co.jp/c-Events-events-general-2007-W0QQAdIdZ26093794">http://tokyo.kijiji.co.jp/c-Events-events-general-2007-W0QQAdIdZ26093794</a>		
4	全国イベントガイド	イベントメディア	10月10日
	<a href="http://www.event-guide.jp/cgi-bin/database/database.cgi">http://www.event-guide.jp/cgi-bin/database/database.cgi</a>		
5	goo東京	NTTレゾナント	10月11日
	<a href="http://machi.goo.ne.jp/snd/EventID_88147/cover/event.asp">http://machi.goo.ne.jp/snd/EventID_88147/cover/event.asp</a>		
6	event-calendar	event-eye.com	10月11日
	<a href="http://www.event-eye.com/calendar/cgi-bin/result2.cgi?event_id=8210">http://www.event-eye.com/calendar/cgi-bin/result2.cgi?event_id=8210</a>		
7	EVENT NAVI		10月11日
	<a href="http://eventnavi.jp/piCal-index.smode-Monthly-action-View-event_id-0000000109-caldate-2007-11-1.htm">http://eventnavi.jp/piCal-index.smode-Monthly-action-View-event_id-0000000109-caldate-2007-11-1.htm</a>		
8	まいぶれ	フューチャーリンクネットワーク	10月12日
	<a href="http://www.myppl.biz/mypl/town/front/TownList.do?asp_id=1&amp;skin_no=11006#11102">http://www.myppl.biz/mypl/town/front/TownList.do?asp_id=1&amp;skin_no=11006#11102</a>		
9	ロボコンマガジン	オーム社	10月15日
	<a href="http://www.ohmsha.co.jp/robocon/event/event.htm">http://www.ohmsha.co.jp/robocon/event/event.htm</a>		
10	JRおでかけネット	JR西日本	10月19日
	<a href="http://event.jr-odekake.net/event/45372.html">http://event.jr-odekake.net/event/45372.html</a>		
11	Yahoo! 地域情報	Yahoo Japan	10月19日
	<a href="http://local.yahoo.co.jp/static/event/a113/45372.html">http://local.yahoo.co.jp/static/event/a113/45372.html</a>		
12	Biotechnology Japan	日経BP	-
	<a href="https://biotech.nikkeibp.co.jp/100hpn/100hpdetail.jsp?id=2502&amp;site=btj">https://biotech.nikkeibp.co.jp/100hpn/100hpdetail.jsp?id=2502&amp;site=btj</a>		
13	バイオコミュニケーションハウス	農林水産先端技術産業振興センター	-
	<a href="http://www.biotech-house.jp/event/event_263.html">http://www.biotech-house.jp/event/event_263.html</a>		
14	学びの場.COM	内田洋行 教育総合研究所	-
	<a href="http://www.manabinoba.com/index.cfm/4,9225,84,html">http://www.manabinoba.com/index.cfm/4,9225,84,html</a>		
15	ぷらぷら	アウンコンサルティング(株)	-
	<a href="http://www.pla2.net/details/200711/5857.html">http://www.pla2.net/details/200711/5857.html</a>		

# 制作物

サイエンスアゴラをより多くの人に知ってもらうため、ポスターやリーフレットを制作しました。事務局と出展者のネットワークを用いて、広く頒布されました。この他にも、各出展者により、多くのポスター、リーフレット、ポストカードなどが作られました。



リーフレット  
第1弾



ポスター



リーフレット  
第2弾

デザイン  
木村 政司氏(日本大学芸術学部)  
イラストレーション  
来住 嘉洋氏(日本大学芸術学部)



アドカード 2種



当日プログラム



## サイエンスアゴラ公式ホームページ

<http://scienceportal.jp/scienceagora/>



ホームページには、開催概要、プログラムのほか、“オーガナイザー通信”、“事務局ブログ”、“サイエンスアゴラの歩き方”などを掲載しました。オーガナイザー通信では、各出展者の日々の活動や熱い思いが写真と共に紹介され、臨場感溢れる内容となりました。

# プログラム / 登壇者

11月23日(金・祝)

**1 シンポジウム** A 10:00-11:15 参加人数 60

サイエンスコミュニケーション活動報告会

主催:サイエンスアゴラ実行委員会

上田昌文(NPO法人 市民科学研究室 代表)、樋渡保秋(NPO法人 いしかわサイエンス21 理事長)、榎木英介(NPO法人サイエンス・コミュニケーション代表理事)、加村啓一郎(生化学若い研究者の会/東京大学大学院理学系研究科)、嶋田義皓(物性若手夏の学校/東京大学大学院工学系研究科)、井上智裕・平井明・浦野須磨子(宇宙少年団 未来MM分団)、井上智裕(サイエンスクラブ)、田中舞(サイエンスクラブ/東京大学大学院学際情報学府)、北浜榮子(NPO法人 科学と市民社会のコミュニケーション(サコムス宝塚)理事長)、一星礼、白井哲哉・加藤和人(京都大学大学院 生命科学研究科)、南波直樹(理化学研究所)

**2 SHOW&ワークショップ** B 10:20-12:00 参加人数 94

科学ライブショー『ユニバース』

主催:ちもんず、サイエンスボックス

半田利弘(東京大学・理・天文センター)、木村かおる(サイエンスボックス)、荻野志乃・高津貴大・松浦匡・伊藤哲也(ちもんず)

**3 ワークショップ** C 10:00-12:00 参加人数 15

振動反応と生命現象

主催:桜美林大学

秀島武敏(桜美林大学)

**4 ワークショップ** E 11:15-12:30 参加人数 20

広がる草の根サイエンス・コミュニケーション

主催:NPO法人サイエンス・コミュニケーション

ワークショップ出席者

**5 シンポジウム** F 10:00-13:00 参加人数 160

社会技術フォーラム『ライフサイエンスの倫理とガバナンス』

主催:JST 社会技術研究開発センター

有本建男(社会技術研究開発センター長)、金澤一郎(日本学術会議会長)、加藤尚武(東京大学大学院医学系研究科特任教授/鳥取環境大学名誉学長)、札幌順(金沢工業大学科学技術応用倫理研究所)、河原直人(早稲田大学 先端科学・健康医療融合研究機構)、鈴木美香(京都大学大学院医学研究科)、高橋政代(独)理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター)、堂園俊彦(東京大学大学院医学系研究科)、永山悦子(毎日新聞東京本社 科学環境部)、菱山豊(文部科学省研究振興局ライフサイエンス課)、北澤宏一(科学技術振興機構 理事長)

**6 パネルディスカッション** G 10:00-12:00 参加人数 30

次世代の科学教育と合宿セミナーを考える

主催:数理の翼

岡田謙介(数理の翼/STeLA)、白岩学・崔 智英(STeLA)、松原正樹(数理の翼)

**7 SHOW** H 12:00-13:00 参加人数 100

コント『遺伝子組換えオババ』

主催:コント団 グモッチュ

柳沼秀幸・佐溝貴史(東京大学大学院)

**8 活動報告会** IJK 10:00-15:00 参加人数 125

研究者情報発信活動推進モデル事業成果報告会、地域科学館連携支援事業成果報告会

主催:JST 科学技術理解増進部

研究者情報発信活動推進モデル事業成果報告会 15課題

池上高志(東京大学大学院 総合文化研究科)、伊藤悦朗(徳島文理大学 香川薬学部)、片岡佐知子(奈良女子大学)、桂田祐介(名古屋大学 博物館)、河野恵伸(独)農業・生物系特定産業技術研究機構 中央農業総合研究センター)、小林傳司(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター)、柴田晋平(山形大学 理学部)、鈴木高宏(東京大学大学院情報学環)、中須賀真一(東京大学)、中山迅(宮崎大学 教育文化学部)、曾根秀昭(東北大学)、堀藤(名古屋大学)、室伏きみ子(お茶の水女子大学)

地域科学館連携支援事業成果報告会 16企画

北海道立オホーツク流氷科学センター、旭川市旭山動物園、仙台市科学館、アクアワールド茨城県大洗水族館、群馬県立自然史博物館、神流町恐竜センター、千葉県立中央博物館、科学技術館、神奈川県立生命の星・地球博物館、四日市市立博物館、京都大学総合博物館、きつぷろ科学館ふおとん、兵庫県立人と自然の博物館、みさと天文台、広島市森林公園昆虫館、長崎市科学館

**9 展示** N 10:00-17:00 参加人数 400

miniセルフエスタ2007 in 東京

主催:日本学術会議 科学力増進分科会

室伏きみ子・仲矢史雄・森富子・西川恵子・野口政正(お茶の水女子大学)

**10 展示・講演・試乗会** Q 10:00-18:00 参加人数 155

サイエンス・スクエア臨海休日特別公開・特別講演会

主催:産業技術総合研究所 臨海副都心センター

岩月徹(産業技術総合研究所 人間福祉医工学研究部門)

**11 シンポジウム** A 12:30-14:30 参加人数 79

気候変動を考える～How to Communicate Climate Change?～

主催:ブリティッシュ・カウンシル、サイエンスアゴラ実行委員会

Jason James(ブリティッシュ・カウンシル駐日代表)、David Buckland(Cape Farewell Project)、高谷史郎(アーティスト/ダムタイプ)、染野憲治(環境省地球環境局温暖化対策課)、山科直子(日本科学未来館)

**12 ワークショップ** B 13:00-15:00 参加人数 60

Let's Go Go! マジカル・スプーン

主催:情報科学理解促進プロジェクト

香山瑞恵(信州大学工学部 准教授)、二上貴夫(NPO法人 組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会・理事)

**13 ワークショップ** C 13:00-15:00 参加人数 30

リテラシーの観点からみたトキの島再生プロジェクト

主催:東京工業大学 トキの島リテラシープロジェクト

西條美紀(東京工業大学)、河口洋一(九州大学)、川本思心・浅羽雅晴(東京工業大学)

**14 シンポジウム** E 13:00-15:00 参加人数 30

踊る大科学コミュニケーション

主催:北海道大学 CoSTEP

渡辺和郎(サイエンスコミュニケーター・アマチュア天文家)、相馬充(国立天文台助教)、松本嘉幸(芝浦工業大学 柏中・高教諭・アマチュアアプラムシ学者)、秋元信一(北海道大学大学院農学研究院・教授)、宮入隆・難波美帆(北海道大学CoSTEP教員)

**15 講演** F 13:30-15:20 参加人数 162

ユメミルチカラ～宇宙に挑戦する理由～

主催:スペースタイム

植松努(植松電機専務、カムイスペースワークス代表取締役)

**16 ワークショップ** M 13:00-17:00 参加人数 195

折り紙ヒコーキ教室

主催:JST 科学技術理解増進部

鈴木真二(東京大学大学院教授・航空宇宙システム学講座)、戸田拓夫(日本折り紙ヒコーキ協会 会長)

**17 講演** F 15:30-18:00 参加人数 191

開会基調講演・開会シンポジウム

主催:サイエンスアゴラ実行委員会

北澤宏一(科学技術振興機構 理事長)、吉川弘之(国際研究交流大学村長)、岩瀬公一(文部科学省科学技術・学術総括官)、薬師寺泰蔵(内閣府総合科学技術会議 議員・慶應義塾大学客員教授)、Sir Roland Jackson (British Association for the Advancement of Science)、永山昭昭(サイエンスアゴラ実行委員長)、森美樹(NHK制作局)、美馬のゆり(公立はこだて未来大学 教授)、長神風二(科学技術振興機構 科学技術理解増進部)



# プログラム / 登壇者

11月24日(土)

**18 シンポジウム B 10:00-12:00** 参加人数 70

**人間理解のための行動生物学最前線**  
主催: 日本学術会議 行動生物学分科会  
森裕司・石浦章一(東京大学)、長谷川眞理子(総合研究大学院大学)、岡ノ谷一夫(理化学研究所)

**19 ワークショップ C 10:00-12:00** 参加人数 102

**ロケットをつくろう! ワークショップ**  
主催: スペースタイム  
植松努(植松電機専務、カムイスペースワークス代表取締役)

**20 シンポジウム F 10:00-12:00** 参加人数 163

**みんなで探そう 第二の地球—世界天文年2009プレ・イベント—**  
主催: 国立天文台  
海部宣男(日本学術会議)、須藤靖(東京大学)、田村元秀・縣秀彦(国立天文台)

**21 ワークショップ G 10:00-12:00** 参加人数 50

**未来のサイエンスのあり方とは—激化する競争と協力の間で—**  
主催: Oto1(東京大学大学院理学系研究科)  
横山広美(東京大学・理・広報・科学コミュニケーション 准教授)、小寺千絵(東京大学・理・生物科学 M2)、佐々木浩(東京大学・理・生物化学 D1)、松尾信一郎(東京大学・数理 D1)、豊田文典(東京大学・理・地球惑星物理学 M1)、岩崎 渉(東京大学・新領域・情報生命科学 D1)

**22 SHOW H 12:00-13:00** 参加人数 40

**コント『遺伝子組換えオババ』**  
主催: コント団 Gモッチュ  
柳沼秀幸・佐溝貴史(東京大学大学院)

**23 セミナー I 10:00-11:50** 参加人数 49

**遺伝子検査が街にやってきた**  
主催: 北里大学、バイオインダストリー協会  
青野由利(毎日新聞 論説室論説委員)、島田和典(G&Gサイエンス(株))、田村智英子(お茶の水女子大学大学院 准教授)、山縣然太郎(山梨大学大学院 教授)、大畑尚子・住田朋久(北里大学大学院)、武藤香織(東京大学医科学研究所 准教授)、渡部麻衣子(北里大学大学院)

**24 セミナー・ワークショップ・展示 J 10:00-17:00** 参加人数 150

**においの不思議—くんと嗅覚を再発見! 体験!**  
主催: におい・かおり専門ネット  
東原和成(東京大学)、小早川達(産業技術総合研究所)、鈴木竜・国枝里美(高砂香料)、井上尚子(芸術家)

**25 展示 K 10:00-17:00** 参加人数 200

**アート・アンド・サイエンス—科学と芸術のコラボ**  
主催: NPO法人 科学芸術学際研究所 ISTA  
小川泰(ISTA/筑波大学名誉教授)、渡辺泰成(ISTA/帝京平成大学)、高木隆司(ISTA/神戸芸術工科大学)、池上祐司(ISTA/理化学研究所)、村上達人(ISTA)、石垣健(ISTA/COMA DESIGN STUDIO)、大内公公(ISTA/公公工房)、吉川信雄(ISTA/環境芸術学会)、倉持勇紀(ISTA/カラーネット)、米本実(ISTA/洗足学園音楽大学)、CHAOSMOS/富岡雅寛(ISTA)

**26 実演 N 10:00-17:00** 参加人数 220

**実演・情報通信技術を駆使したレスキューロボット**  
主催: 東北大学、大阪大学、情報通信研究機構  
吉田和哉(東北大学大学院工学研究科)、永谷圭司(東北大学大学院工学研究科)、八木康史(大阪大学産業科学研究所)、清川清(大阪大学サイバーメディアセンター)、滝澤修(情報通信研究機構)

**27 展示 Q 10:00-18:00** 参加人数 216

**サイエンス・スクエア臨海休日特別公開・特別講演会**  
主催: 産業技術総合研究所 臨海副都心センター  
持丸正明(産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター 副研究センター長)

**28 シンポジウム A 13:00-15:00** 参加人数 82

**学校の理科教育を支援する体制の充実に向けて**  
主催: サイエンスアゴラ実行委員会  
井上徳之(日本科学未来館)、日比野安平(岐阜県先端科学技術体験センター館長)、高安礼士(千葉県総合教育センターカリキュラム開発部長)、森井俊介(岐阜県教育委員会事務局/理科支援員等配置事業コーディネーター)、林四郎(東京都北区立滝野川小学校校長、全国小学校理科研究協議会会長)、橋本暁(北区立王子小学校教諭)、千葉茂(盛岡市こども科学館 館長)、岡島茂樹(中部大学工学部 教授、応用物理学会)

**29 ワークショップ B 13:00-15:00** 参加人数 30

**第二回サイエンスショップ・ワークショップ 日本におけるニーズを考える**  
主催: 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター  
平川秀幸(大阪大学)、中武貞文(九州大学)、伊藤真之(神戸大学)

**30 セミナー C 13:00-15:00** 参加人数 60

**研究機関の広報の役割**  
主催: 産業技術総合研究所 広報部  
高柳雄一(多摩六都科学館)、佐倉統(東京大学)、目代邦康(産業技術総合研究所)、岡田小枝子(理化学研究所)、神野智子(東京大学)

**31 サイエンスカフェ E 13:00-15:00** 参加人数 70

**理科On喫茶 ~新感覚サイエンスカフェへようこそ!~**  
主催: かはくSCこはく有志  
針谷亜希子(東京農工大学大学院)、福土碧沙(筑波大学大学院)、河本聡子(国際基督教大学大学院)、岩崎永治(日本獣医生命科学大学大学院)

**32 シンポジウム F 13:00-16:00** 参加人数 100

**ロボットの人類学**  
主催: 日本学術会議 自然人類学分科会  
石黒浩(大阪大学工学研究科)、森島繁生(早稲田大学理工学部)、河内まき子(産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター)、山極寿一(京都大学理学研究科)、竹沢泰子(京大人文学部)、持丸正明(産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター)

**33 シンポジウム G 13:00-15:00** 参加人数 110

**携帯音楽プレーヤーを使用した科学情報配信の実践報告**  
主催: インターネットラジオ局くりらじ  
中西貴之(「ヴォイニッチの科学書」インターネットラジオ局くりらじ)、大日方直樹(「スターウォッチングエクスプレス」株式会社アストロアーツ)

**34 実演 I 13:00-15:00** 参加人数 100

**「先生はマジシャン」見て・やって・謎解きを楽しもう**  
主催: 科学読物研究会  
野呂茂樹(科学読物研究会)

**35 トークセッション L 13:00-15:00** 参加人数 25

**国境を越えた科学のコミュニケーション**  
主催: 国際研究交流大学村  
Blech Vincent(日本科学未来館)、藤淵航(産業技術総合研究所臨海副都心センター)、林新(産業技術総合研究所臨海副都心センター)、張以清・Yessy Arvelyna・辛大允(東京国際交流館)

**36 ワークショップ M 13:00-17:00** 参加人数 227

**折り紙ヒコーキ教室**  
主催: JST科学技術理解増進部  
鈴木真二(東京大学大学院教授・航空宇宙システム学講座)、戸田拓夫(日本折り紙ヒコーキ協会 会長)

**37 シンポジウム B 15:00-17:00** 参加人数 80

**科学技術リテラシーの効用~ライフコース構築の観点から**  
主催: 日本学術会議 科学力増進分科会  
北原和夫(国際基督教大学)、藤原和博(杉並区立和田中学校校長)、田代直幸(文部科学省教科調査官)、縣秀彦(国立天文台准教授)、新井紀子(国立情報学研究所教授)、高安礼士(千葉県総合教育センター)、古田ゆかり(リビングサイエンスラボ)、渡辺政隆(科学技術政策研究所)

# プログラム / 登壇者

38 セミナー C 15:00-17:00 参加人数 30

学生からはじまるサイエンスカフェ

主催:サイエンスカフェ in はこだて実行委員会

北陸先端科学技術大学院大学、公立はこだて未来大学

39 シンポジウム G 15:00-17:00 参加人数 50

エチゼンクラゲで国を生むー新物質クニウムチン発見!

主催:理化学研究所

丑田公規(理化学研究所中央研究所環境ソフトマテリアル研究ユニット)、三宅裕志(北里大学水産学部)、水野重正(三津漁業生産組合漁労長/京都府)

40 実演 I 15:00-17:00 参加人数 57

『サイエンス・ダイアログ』~科学で世界とつながれ!

主催:日本学術振興会

ミケレ・グララニエリ博士(東京工業大学)、広瀬茂男(東京工業大学 教授)、加藤久(日本学術振興会 人物交流課長)

41 ワークショップ L 15:00-17:00 参加人数 20

Cape Farewell~北極圏を航海して(Voyage to the higher arctic)~

主催:プリティッシュ・カウンシル

David Buckland(Cape Farewell Project)、Vicky Long(Cape Farewell Project)

42 フォーラム A 16:00-18:00 参加人数 105

科学とテレビ/テレビと科学

主催:サイエンスアゴラ実行委員会

吉岡忍(作家)、安井至(国連大学)、隈本邦彦(北海道大学)、上滝徹也(日本大学芸術学部)

43 コンテスト B 17:00-19:00 参加人数 90

サイエンスプレゼンテーション!

主催:日本科学未来館

大石和江・橋本裕子・細川聡子・榎野貴子・小川ちひろ(日本科学未来館)、佐藤幹雄(NPO法人鑑の学校)、上田昌文(NPO法人 市民科学研究室 代表)、益田孝彦(2007年科学の鉄人/三浦市教育委員会学校教育課)、三宅丈夫(学習研究社 デジタルコンテンツ事業部 副部长)、八幡紙芦史(NPO法人 国際プレゼンテーション協会 理事長)、渡辺政隆(科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター 上席研究官)

44 セミナー C 17:00-19:00 参加人数 20

私たちの薬はどのようにつくられるのか?

主催:JST研究開発戦略センター(CRDS)

川上浩司(京都大学大学院 医学研究科/JST-CRDS)、小西宏(朝日新聞社 東京本社医療取材グループ)、仙石慎太郎(京都大学大学院 薬学系研究科)、中原綾子(国際医療福祉大学 中央治験管理部)、廣田直美(日本オルガノン株式会社 薬事業制本部長)、原田良信(JST-CRDS)

45 ワークショップ E 17:00-19:00 参加人数 43

サイエンスカフェって何?~できることをさぐる

主催:サイエンスカフェを考える会

尾林彩乃・北田薫・立花浩司・藤原弘章・松田健太郎(サイエンスカフェを考える会)、高橋裕子(広島市科学技術市民カウンセラー)、本間善夫(サイエンスカフェにいがた)

46 シンポジウム F 17:00-19:00 参加人数 70

新しい『サイエンス・メディア』をデザインする

主催:日本学術会議 科学力増進分科会

早川信夫(NHK解説委員)、福原伸治(フジテレビ)、毛利衛(日本科学未来館)、北原和夫(国際基督教大学)、鈴木晶子(京都大学大学院)

47 サイエンスカフェ G 17:00-19:00 参加人数 77

サイエンスカフェ~CAMUIロケット、点火5秒前~

主催:スペースタイム

永田晴紀(北海道大学教授・宇宙工学、JAXA 宇宙科学研究本部客員教授)、佐治真規子(NHKキャスター)

48 サイエンスカフェ H 10:00-17:00 参加人数 150

北大 de Mobile Café(デ・モバイルカフェ)

主催:N-Caféやってみ隊(北海道大学 創成科学共同研究機構)

守真奈美・信濃卓郎・平野智也(北海道大学 創成科学共同研究機構)、海野佑介(北海道大学 農学研究科)、星野洋一郎(北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター)、宮下朋美(北海道大学 環境科学院)、手老篤史(JST さきがけ専任研究員)、山口将大(北海道大学 理学部)

11月25日(日)

49 シンポジウム B 10:00-12:00 参加人数 63

『細胞を創る』研究とは? ~科学・技術と文化の対話に向けて

主催:『細胞を創る』研究会 社会・文化ユニット

四方哲也(大阪大学 構成生物学・実験進化学)、竹内昌治(東京大学 マイクロデバイス工学)、上田昌文(NPO市民科学研究室代表)、日比野愛子(京都大学 社会心理学)、加藤和人(京都大学 科学コミュニケーション・生命化学)

50 ワークショップ C 10:00-13:30 参加人数 45

実験教室『身近な野菜からDNAを取り出してみよう』

主催:理化学研究所

皆川敏一(理化学研究所 広報室)

51 談話会 E 10:00-12:00 参加人数 55

未来からの注文~科学ジャーナリストへ、科学ジャーナリズムへ~

主催:日本科学技術ジャーナリスト会議

小出五郎(日本科学技術ジャーナリスト会議 会長)、柴田鉄治(日本科学技術ジャーナリスト会議 理事)、佐藤年緒(日本科学技術ジャーナリスト会議 事務局長)

52 セミナー F 10:00-12:00 参加人数 40

日米におけるサイエンスアートの現状と未来予想図

主催:TANE +1 LLC.

Tomoo Narashima(TANE +1 LLC.)、Motoo Nakanishi(PAOS(株)中西元男事務所)、Gary Lees(Johns Hopkins University School of Medicine)、Risa Ozaki(TANE +1 LLC.)

53 セミナー G 10:00-12:00 参加人数 10

若手理系人のためのキャリア構築セミナー

主催:NPO法人サイエンスコミュニケーション サイコムキャリア

沖本優子・山本伸・富田信志(NPO法人サイエンスコミュニケーション)

54 ワークショップ I 10:00-12:30 参加人数 150

HPスーパーサイエンスキッズ コンテスト最終選考会とワークショップ

主催:HPスーパーサイエンスキッズ実行委員会

55 実演 J 10:00-12:00 参加人数 50

分子が見える! 分子で魅せる!

主催:分子計算と視覚化研究会

本間善夫(Webサイト「生活環境化学の部屋」主宰)、千田範夫(テンキューブ研究所)、長尾輝夫(函館工業高等専門学校)、時田澄男(埼玉大学名誉教授)、佐藤健太郎(製薬会社勤務)、佐々木渉(製薬会社勤務)

56 展示 K 10:00-17:00 参加人数 100

アート・アンド・サイエンスー科学と芸術のコラボ

主催:NPO法人 科学芸術学際研究所 ISTA

小川泰(ISTA/筑波大学名誉教授)、渡辺泰成(ISTA/帝京平成大学)、高木隆司(ISTA/神戸芸術工科大学)、池上祐司(ISTA/理化学研究所)、村上達人(ISTA)、石垣健(ISTA/COMA DESIGN STUDIO)、大内公公(ISTA/公公工房)、吉川信雄(ISTA/環境芸術学会)、倉持勇紀(ISTA/カラーネット)、米本実(ISTA/洗足学園音楽大学)、CHAOSMOS/富岡雅寛(ISTA)

# プログラム / 登壇者

11月25日(日)

57 ワークショップ L 10:00-12:00 参加人数 25

科コミ夏セミ2007『映像作品』発表報告会

主催: 科学映像コミュニケーション研究会

林衛(科学映像コミュニケーション研究会/富山大学人間発達科学部)、難波美帆(北海道大学 CoSTEP)、中村景子(科学技術コミュニケーション工房スペースタイム)、守真奈美(北海道大学)、川本思心(東京工業大学)、中尾麻伊香(東京大学)、中澤栄輔(東京大学)

58 その他 N 10:00-17:00 参加人数 100

スペースダンス・イン・ザ・チューブ

主催: 東京スペースダンス

櫻井圭記(プロダクションIG、「攻殻機動隊」脚本家)、上田昌文(NPO法人市民科学研究室 代表)、和田雄志(未来工学研究所・21世紀社会システム研究センター長)、福原哲郎(東京スペースダンス)

59 シンポジウム A 12:30-15:00 参加人数 79

総括基調講演・総括シンポジウム

主催: サイエンスアゴラ実行委員会

海部宣男(放送大学教授・日本学術会議第三部部長)、岡田弘(北海道大学名誉教授・NPO環境防災機構理事)、美馬のゆり(公立はこだて未来大学 教授)、長神風二(科学技術振興機構科学技術理解増進部)

60 ワークショップ C 14:00-17:00 参加人数 70

電子マネーカードの内部はどのようにして作るの?(オリジナルキーホルダーを作ろう)

主催: 宇宙高専ものづくり工作教室

原田邦彦(宇宙高専ものづくり工作教室)

61 ワークショップ I 13:00-16:30 参加人数 40

コンピュータが変える未来の教室 スクイーク実践事例&体験ワークショップ

主催: みんなでたのしくスクイーク実行委員会

阿部和広(サイバー大学客員教授)、宮坂俊夫(デジタルハリウッド大学大学院研究員)

62 映像&講演 B 15:30-17:00 参加人数 30

『都会の森のためき』~自然を通じて見えた東京~

主催: 早稲田大学 科学技術ジャーナリスト養成プログラム(MAJESTY)

佐々木洋(プロ・ナチュラリスト)

63 シンポジウム F 15:30-19:00 参加人数 78

生命の息吹と地球の鼓動を聞く: 今、フィールドサイエンスが面白い

主催: 日本学術会議 自然史 古生物学分科会

鷺谷いづみ(東京大学大学院)、馬渡駿介(北海道大学大学院)、磯崎行雄(東京大学大学院)、江崎洋一(大阪市立大学大学院)、小林快次(北海道大学総合博物館)、藤井敏嗣(東京大学地震研究所)、小野昭(首都大学東京大学院)、遠藤秀紀(京都大学霊長類研究所)、北里洋(海洋研究開発機構地球内部変動研究センター)、斎藤靖二(神奈川県立生命の星・地球博物館)

64 シンポジウム G 15:00-17:00 参加人数 90

サイボーグに未来はあるか?~エンハンスメント技術の光と影

主催: NPO法人市民科学研究室、財団法人未来工学研究所

小林宏(東京理科大学工学部)、磯山隆(東京大学大学院医学系研究科)、櫻井圭記(プロダクションIG、脚本家)、金森修(東京大学大学院教育学研究科)、土屋敦(東京大学大学院人文科学研究科)、和田雄志(未来工学研究所主任研究員)、上田昌文(NPO法人市民科学研究室 代表)

65 ワークショップ J 15:00-17:00 参加人数 15

日米学生の国際科学技術リーダーシップ育成を目指して

主催: STeLA

斎藤康也(東京大学、STeLA-Japan代表)

66 ワークショップ L 15:00-17:00 参加人数 40

本音で語るポスドク問題

主催: NPO法人サイエンス・コミュニケーション

三浦有紀子(科学技術政策研究所)、中島達雄(読売新聞東京本社 編集局科学部記者)

11月23日(金・祝) 24日(土) 25日(土) 開催

67 展示 D 10:00-17:00

アートとサイエンスをつなぐスイッチ

主催: 日本大学芸術学部

木村政司(日本大学芸術学部デザイン学科教授)、兼高聖雄(日本大学芸術学部放送学科教授)、向井知子(日本大学芸術学部専任講師)、石田純之助(日本大学芸術学部助教)、山本寛子・森下綾・見目麻子・太田光・織田有紀・吉田由梨・小松真利亜・齋藤さやか・向手拓也・新井薫・テンブルゲンケート・ダリン・古幡愛美・大澤睦美・植田慎也・伊 康柱・志真健太郎・藤井理史・辻輝・吉野俊輔・石井克哉・田村明日香・永吉盛住・渡辺繁・水谷広・片山皓絵・中野美貴子(日本大学芸術学部)

68 展示 D 10:00-17:00

独立行政法人理化学研究所の紹介

主催: 理化学研究所

69 展示 D 10:00-17:00

心に訴える先端科学展示

主催: 東京大学宇宙線研究所

伊藤英男(東京大学宇宙線研究所)

70 ブース展示 H 10:00-17:00

トップクラスのサイエンスアートを通じて

主催: TANE +1 LLC.

Tomo Narashima (TANE +1 LLC.)、Risa Ozaki (TANE +1 LLC.)、Motoo Nakanishi (PAOS ((株) 中西元男事務所)、Gary Lees (Johns Hopkins University School of Medicine)

71 ブース展示 H 10:00-17:00

星のソマリ工養成講座をひらいてみませんか?

主催: 星空案内人資格認定制度運営委員会

柴田晋平(山形大学理学部)、佐藤理絵・渡邊瑛里(NPO法人小さな天文学者の会)

72 ブース展示 H 10:00-17:00

世界にチャレンジ! 科学オリンピック

主催: JST理数学習支援部

73 ブース展示 H 10:00-17:00

DNAチップを用いた新たな遺伝子教育の可能性

主催: (株)DNAチップ研究所

藤沼俊則((株)DNAチップ研究所 営業部)、石澤洋平((株)DNAチップ研究所 研究開発部)

74 ブース展示 H 10:00-17:00

科学技術コミュニケーションの質を吟味する!

主催: LSSL研究プロジェクト

大塚裕子(計量計画研究所)、森本郁代(関西学院大学)、富田英司(九州大学)

75 ブース展示 H 10:00-17:00

『いのちをまもる知恵~減災に挑む30の風景』を伝える

主催: 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター

菅磨志保・花村周寛・春日匠(大阪大学)

76 展示 O 10:00-17:00

カタチってすごい! 単純さ・複雑さから見える未来のサイエンス

主催: Oto1(東京大学大学院理学系研究科)

三宅博行(東京大学・工・建築 M2)、池内桃子(東京大学・理・生物科学 M1)、豊田文典(東京大学・理・地球惑星科学 M1)、永村直佳(東京大学・理・物理学 D1)

# プログラム / 登壇者

77 展示 O 10:00-17:00 

星座今昔物語～天文学と『歴史学・民俗学』の新たな再会

主催: 総合研究大学院大学

松岡葉月・日下部展彦・川越至桜・稲見華恵・立田委久子・小池一隆 (総合研究大学院大学)

78 展示 O 10:00-17:00 

大学での最先端の研究を覗いてみませんか?

主催: 東京大学大学院新領域創成科学研究科

山本一夫・有田正規・尾田正二・佐野俊夫・太田博樹・鈴木詔子・清水義宏・岡夏央 (東京大学大学院新領域創成科学研究科)

79 ポスター H 10:00-17:00 

音楽と科学のつながり…サイエンス天文ライブの報告

主催: サイエンスクラブ

井上智裕 (サイエンスクラブ)、田中舞 (サイエンスクラブ / 東京大学大学院学際情報学府)

80 ポスター H 10:00-17:00 

宇宙少年団未来MM分団の活動紹介

主催: 宇宙少年団未来MM分団

井上智裕・平井明・浦野須磨子 (宇宙少年団未来MM分団)

81 ポスター H 10:00-17:00 

視覚しょうがい者とともに楽しむ宇宙

主催: サイエンスクルー「星の語り部」

伊藤哲也・跡部浩一 (星の語り部)、高橋真理子 (山梨県立科学館)

82 ポスター H 10:00-17:00 

携帯音楽プレーヤーを使用した科学情報配信の実践報告

主催: インターネットラジオ局くりらじ

83 ポスター H 10:00-17:00 

生命科学研究における科学コミュニケーション活動の実践と調査

主催: 京都大学 大学院 生命科学研究科 生命文化学分野 (加藤和人研究室)

白井哲哉・森田華子 (京都大学大学院 生命科学研究科 生命文化学分野)

84 ポスター H 10:00-17:00 

サイエンスカフェポスター展 in サイエンスアゴラ2007

主催: サイエンスカフェを考える会

サイエンスカフェを考える会、サイエンスポータル、ピズ・サイエンスカフェおたる、サイエンス・カフェ札幌、北大de Night Café、サイエンスカフェ in はこだて、東北大学サイエンスカフェ、産総研サイエンスカフェ、筑波大学バイオeカフェ、NPO法人ScienceStation、アストロノミー・パブ、サイエンス・リテラシー・カフェ、科学ひろば、バイオカフェ、三省堂サイエンスカフェ、染織サイエンスカフェ、早稲田大学理工学術院、サイエンスカフェ in Folio、法政大学自然科学センター、千葉大学工学部共生応用化学科、日本大学理工学部精密機械工学科ロボット教育を考える会、慶應義塾大学教養研究センター極東証券寄附講座、神奈川県立川崎図書館、サイエンスカフェにいがた、カフェシアンティフィック名古屋、北陸先端科学技術大学院大学 サイエンスカフェ石川、サイエンスカフェ神戸、サイエンスカフェ岡山、サイエンスカフェひろしま、九州大学ばりカフェ、JST Science Café in みやざき

85 ポスター O 10:00-17:00 

ようこそ!! 国際研究交流大学村へ

主催: 国際研究交流大学村

86 ポスター O 10:00-17:00 

サイエンス+グラフィックアート

主催: 伊藤美陽

伊藤美陽 (株式会社ランバーミル)

87 ポスター O 10:00-17:00 

SNOW FOREST

主催: 北海道東海大学 林ゼミナール

林拓見・戌亥真一郎・坪井翔平・中島大地・藤井俊之・堀尾勇太・山口翔平 (北海道東海大学 林ゼミナール)

88 ポスター O 10:00-17:00 

蝶類行動学の今

主催: 入江菫子 (筑波大学大学院 生命環境科学研究科)

入江菫子 (筑波大学大学院 生命環境科学研究科 生命共存科学専攻)

89 ポスター O 10:00-17:00 

数理の翼夏季セミナーの活動紹介

主催: 数理の翼

90 ポスター O 10:00-17:00 

今どきの若手研究者のネットワーク作り

主催: 生化学若い研究者の会

加村啓一郎 (東京大学大学院 理学系研究科)、藤田一広 (東京大学大学院 新領域創成科学研究科)、北西卓磨 (東京大学大学院 薬学系研究科)

91 ポスター O 10:00-17:00 

今どきの若手研究者のネットワーク作り

主催: 物性若手夏の学校

嶋田義皓 (東京大学大学院工学系研究科)

92 ポスター O 10:00-17:00 

科学ライブショー『ユニバース』の紹介

主催: ちもんず

荻野志乃・松下郁 (ちもんず)

93 ポスター O 10:00-17:00 

東大理学部: 広報・科学コミュニケーションの概要

主催: 東京大学理学部 広報室

横山広美 (東京大学理学部 広報・科学コミュニケーション)

94 ポスター O 10:00-17:00 

SC俯瞰ii 新進科学コミュニケーター・レポート

主催: 日本科学未来館

立花浩司 (日本科学未来館ボランティア(第16期))、一星礼 (北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット2期修了生)、高橋浩一 (日本科学未来館科学コミュニケーター研修プログラム(1週間コース)修了生)、清水幸夫 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部)、佐藤実 (東海大学理学部)、下村正樹 (産業技術総合研究所 広報部)、柏原夕希子 (CoSTEP平成19年度「環境学習の場のデザインと評価」実習チーム)、天元志保 (CoSTEP平成19年度「環境学習の場のデザインと評価」実習チーム)、堀江信貴 (国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座 修了生)、尾林彩乃 (北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット2期修了生)、藤原弘章 (札幌管区気象台)、倉田智子 (基礎生物学研究所)、中川智絵 (大阪大学コミュニケーションデザイン・センター)、三木恵理 (科学ファン☆Twinkle Night)、佐藤幸一 (埼玉県立越谷総合技術高等学校)

おすすめ  
マーク



家族連れの方  
におすすめ



サイエンスコミュニケーションの  
現場に携わる人向け



理科教育に興味が  
ある人におすすめ



科学者・研究者と  
直接交流できるイベント



大学生・大学院生・  
若手研究者におすすめ



最先端の科学を  
知る事ができるイベント

# サイエンスアゴラ実行委員より

## 縣 秀彦

自然科学研究機構国立天文台 准教授

年1回のイベントから年間を通じての活動へ

科学コミュニケーションに関わっている人にとってサイエンスアゴラは貴重な情報交換・交流の場として認知されつつある。広場のごった煮状態が日本人気質には合うようだ。しかし、それだけではもったいない。ここに集うコミュニケーターや研究者間の情報提供・交流を年間通じて行えば、地域でのカフェやパブ、科学フェスティバル、または人材養成等々がさらに活性化するだろう。早急の課題として検討したい。

## 石川 雄一

産業技術総合研究所 広報部 審議役

開催会場の「国際研究交流大学村」は、「東京国際交流館」、「日本科学未来館」「産総研臨海副都心センター」の3機関によって構成された「村」です。この「村」の中でサイエンスアゴラという「広場」が開設されたことは、「村」の住人にとって大変意義のあることです。ご参集の皆様方からのご意見も頂きながら、引き続き一般の人達が入りやすく敷居の低い「広場」の場を提供していけたらと思っております。

## 上田 昌文

NPO法人市民科学研究室 代表

サイエンスアゴラは、文字や映像でその一端にふれるだけにとどまりがちな、科学研究の全体の動向と雰囲気、人と語り合うことをとおして感知できるのが、なにより嬉しい。科学をよそよそしいもの感じてしまえば、リテラシーもコミュニケーションも始まらない。その意味で、社会問題を扱った『細胞を創る』や『サイボーグに未来はあるか?』などが、その分野の現役の科学者・技術者を招いて研究を熱く語ってもらうところから入ったのはよかったと思う。

## 木村 政司

日本大学芸術学部 教授

第1回のアゴラと同じ会場であったことは、リピーターには来場し易かったが、理解増進という意味においては、極めて不便であり来場者数アップには決して繋がらなかったのは残念だった。シンポジウム、トーク、フォーラムとコミュニケーションイベントは成功だったと思うが、会場の大きさと入場者のバランスの悪さは目立った。改善すべき点である。重なった同質のイベントも多く、かなり不満も多かった。次回に向けて、何よりも続けていくことが最重要である。

## 佐倉 統

東京大学大学院情報学環 教授

成功点については他の人も述べるだろうから、気になった点のみ指摘する。今回目立った出展は、科学技術について分かりやすく一般の人に伝えるという、いわゆる科学コミュニケーターの活動だった。しかし、科学技術と社会の関係は、それだけにとどまるものではない。社会の中で科学技術のあり方を考える企画が、もっと増えてほしいと思った。リスクや環境問題、原発、薬品の規制、福祉のあり方……。考えるべき問題はたくさんあるはずだ。

## 信濃 正範

日本学術会議事務局 参事官

社会の方々の科学技術への興味や関心を呼び覚ます場として、またコミュニケーターの方がスキルを磨く場としてサイエンスアゴラが最も力を発揮するためには、サプライズの場であり続けることが早道です。回を重ねてもどうやってサプライズを提供できるか、科学技術に携わる方やコミュニケーターの方の心意気が空回りしないようにするにはどうしたらよいか、次回以降も主催者は一層の知恵を絞ることが期待されていると感じた3日間でした。

## 下野 隆二

パナソニックセンター東京リスピーア 館長

老若男女サイエンスに関心を寄せる人々が集い、語らいそれが刺激となり新たな価値を生み出した3日間。ここで発生した“サイエンスの火種”がそれぞれ参加者とともに立ち戻り、そこで新たな化学反応を起こして火が燃え移る!日本全体がサイエンス熱で温暖化!こんな事が将来起こるかもしれませんね!

## 中村 日出夫

全国中学校理科教育研究会 顧問

子どもたちの科学離れ理科離れが話題になり、これからの社会には科学リテラシーの涵養が求められています。サイエンスアゴラは、科学の専門家だけでなく私たち誰でも最先端の科学に触れるコミュニケーションの場として開かれました。多忙な学校の先生方の参加には若干課題がありましたが、多くの参加があったことは嬉しい限りです。未来を担う子どもたちには、科学は完成されたものでなく、これからも若い英知が必要であることを理解してもらえる機会になれば良いと思います。

## 美馬 のゆり

公立ほこだて未来大学 教授

今年のアゴラは2回目とあって、昨年よりは参加者が増えました。しかしながら、目的のひとつである、科学コミュニティと市民の対話とまではなかなかいかず、また参加者同士の交流をどのように促進するかは今後の大きな課題です。開催地については、東京だけでなく、地方で実施することも全国的な科学コミュニケーションの促進には必要だと考えています。このほかにも開催の周知方法やプログラムの実施方法など、まだまだ課題は山積みです。

## 渡辺 政隆

文部科学省科学技術政策研究所 上席研究官

代替わりでは二代目の評判がよくないが、アゴラに関しては、第2回目の今年イベントの多様性も増し、充実度を順調に増していたと思う。残念なのは、全体の告知と参加者の熱気の点で昨年に及ばなかったことだろうか。来年は早くから各方面での告知に力を入れると同時に、今一度、初心を思い出すべきだろう。

**サイエンスアゴラ 2008**は、  
2008年11月22日～24日に開催予定です。

# 写真で振り返るサイエンスアゴラ2007



## 16 折り紙ヒコーキ教室

非常に多くの家族連れで賑わった折り紙ヒコーキ教室。競技を通じて、空を飛ばし仕組みを学べる内容は、子供から大人まで夢中になりました。

## 17 開会基調講演・開会シンポジウム



開会基調講演「科学技術政策と科学コミュニケーション」  
薬師寺泰蔵氏 (内閣府総合科学技術会議議員)



特別招待講演「Science and the Public」  
Sir Roland Jackson氏  
(British Association for the Advancement of Science)



## 19 ロケットをつくろう! ワークショップ

事前予約のみでいっぱいになったこの企画。“子供達自身が作ったロケットが青空に吸い込まれていく様子”に子供も大人も歓声があがりました。その瞬間が企画者としては至福の時でした”(出展者 終了直後アンケートより)



## 20 みんなで探そう 第二の地球

—世界天文年2009プレ・イベント—  
太陽系外惑星について、その発見の歴史や観測方法、今後の展望や、地球外生命体の存在の可能性について語り合う内容に、多くの聴衆が聞き入りました。



## 21 未来のサイエンスのあり方とは—激化する競争と協力の間で—

東京大学の大学院生が中心となったこのワークショップでは、捏造問題や博士のキャリアパスなど、現代の科学が抱えている困難について研究者を目指す大学院生の視点から問題を提示し、参加者とともに若手に何ができるかを考える試みを行いました。



## 26 実演・情報通信技術を駆使したレスキューロボット

パラボランテナを2機設置し、レスキューロボットが収集した災害地の画像等の情報を実際に衛星通信(さく8号)を通じて通信し合う大がかりでインタラクティブなデモンストレーションには、会場にいる来場者全員が釘付けになりました。



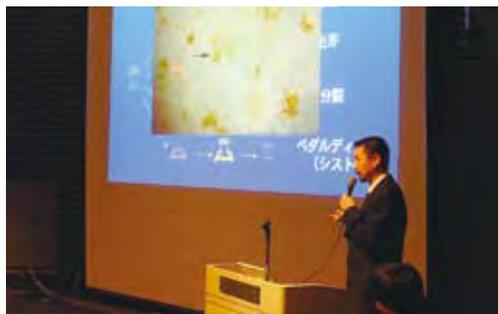
## 34 『先生はマジシャン』見て・やって・謎解きを楽しもう

サイエンスマジックと簡単に作れる科学工作のワークショップが行われた。“参加した子供の反応はとても良く、また、若い方も大人ひとりで参加された方もとても楽しそうでした。”(出展者 終了直後アンケートより)



## 35 国境を越えた科学のコミュニケーション

日本で研究している、中国・韓国・インドネシアの研究者によって行われたトークセッション。司会は日本科学未来館の科学コミュニケーション・Vincent氏(フランス出身)。日本での研究生活や、帰国後の日本との関係について熱く語り合いました。



## 39 エチゼンクラゲで国を生む—新物質クニウムチン発見!

毎年日本海で大量発生するエチゼンクラゲから、有用な物質を発見した丑田氏、クラゲ生態研究の三宅氏、漁業生産者の水野氏によるジョイントセッションでは、先端の研究がまさに現代社会に貢献するその糸口を垣間見ることができました。



## 59 総括基調講演・総括シンポジウム

基調講演は、海部宣男氏「天文学と社会のコミュニケーション」、岡田弘氏「防災におけるコミュニケーション〜有珠山の経験から〜」。また来場者、出展者を含む参加者が一体となって、サイエンスコミュニケーションやサイエンスアゴラにおける今後の課題について非常に活発なスピークアウトも行われました。



みんなであつなごう 未来のスイッチ  
サイエンス アゴラ 2007

独立行政法人科学技術振興機構 (JST)  
科学技術理解増進部 活動推進課  
(サイエンスアゴラ実行委員会事務局)

〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ  
TEL:03-5214-7493 FAX:03-5214-8088  
e-mail:agora@jst.go.jp

「サイエンスアゴラ」公式ホームページ:<http://scienceportal.jp/scienceagora/>

発行:2008年1月